

要約 現代における巨大壁画芸術の一考察

—芸術面の「公共性の構造転換」はミロから始まった—

浅野 幸治

「ゲルニカ」。この言葉からイメージされるピカソの作品は、反戦平和のシンボリックで、インパクトの強い巨大壁画である。大画面の絵画が、多数の観客の目の前に現れる迫力は一般の芸術体験とは異なった感動を生み出すのが「巨大壁画の魅力」である。壁画は、古くはラスコー洞窟画など墳墓や教会を中心に発展してきた最古からの絵画表現の形式である。壁画芸術は、ある場所に半永久的に固定し、数百人が一度に見たい時に何時でも見ることが可能な絵画として、美術の作り手と受け手の意識の共有ができるものである。芸術家にとって壁画制作は、ピカソのゲルニカのように個人の芸術活動の中で重要な意義をもっており、先行研究を見ても壁画芸術は多数取り上げられているが、個別の作品研究がほとんどである。

近現代の壁画は、ナショナリズムの高揚の中フランスで歴史的に復活し、新たに公共の場に登場すると共に、メキシコ壁画運動や1937年のパリ万博を契機に広がってきた。近現代の壁画芸術は、開かれた公共空間への本格的な進出に伴い、民衆に対して宗教や民族の歴史など「社会的な啓蒙」、国や社会、技術の「プレゼンスの発揮」、教育や文化として「芸術の浸透」の三つの機能と役割を拡大してきた。しかし、このように歴史的に重要な位置を占めてきた壁画芸術であるが、第二次世界大戦以後については、依然として俯瞰的な整理がされていない。戦後の巨大壁画は、誰が、どのように取り組み、どのように変化したのか。

本論では、戦後の代表的な壁画制作に関わったピカソ、シャガール、ミロ、シケイロスなどの取り組みの中で、壁画が芸術の公共性に向かう上で、伝統的な主題、古典的な造形、制約された制作技法の三つの面で課題解決を進め、スペイン・カタルーニャを基盤にグローバルな活動を行ったジョアン・ミロ (Joan Miró 1893-1983) の壁画芸術が、戦後の壁画の位置と社会的受容のもとで、どのような地平が切り拓かれたのか考察するものである。

ミロ壁画の代表作《太陽と月》は、戦後、世界の教育・科学・文化の推進を統合するユネスコ・パリ本部の正面玄関横の象徴的な空間に1958年設置され、世界の人々が文化や民族を越えて誰もが受容できる「市民の喜びや癒やし」の醸成を追求したものであった。ミロの壁画芸術は、時代や歴史的背景のもと国や行政といったオフィシャルでモニュメンタルな使命の実現をめざす「主題」から、「誰もが喜び」をもった市民主体のものへの転換を示した。また歴史的伝統的に合意形成されてきた社会的な規範や造

形様式から、異文化や異民族への浸透といった国際的で「誰もが理解」できるスタイルへと転化させた。さらに、過去の制約・限定された空間や技術による芸術の表現技法も含め絵画を超越したオープンな広がりや、「いつでも誰もが見られる」といった市民の芸術受容の拡張や変革を実現した。

以上の構造的な転換＝パラダイムシフトが、戦後の社会変化の国民国家から市民国家への転回と共に「公共性」の三つの概念*の面での進化として把握すれば、新たな公共性、即ち供給面だけでなく受容面での展開により、壁画芸術は「公共性の構造転換」と規定できるものである。

それではなぜ、ミロが壁画芸術における新たな公共性を始めるに至ったのか。ミロにとっての壁画の追求は、単なる「芸術の大衆化」を超え、芸術家のスタンスとして《太陽と月》や《無垢の笑い》にみられる人と人とが触れ合うような人間的な温かさで人を魅了する思想を芸術的に表現し、必然的な流れとして「市民が親しめる芸術」となったのである。ミロ芸術の革新性は、芸術の世界の拡張を通じて、20世紀後半の世界の人々との対話と交流の思想が広く受け入れられたのである。

本論では、戦後の壁画の位置と社会的な受容のもと、巨大壁画芸術を戦略的モデルとした「芸術の公共性」に光を当て、現代社会とアートとの連関や役割を展望した。現代芸術は、単に作家が主体の産物ではなく、社会、政治、歴史、文化が複雑に絡みあった社会的な産物である。壁画という領域は、芸術の自立性といった芸術そのものの志向から「大衆の芸術」へと向かうベクトルをさらに進化させ、オープンな公共空間で人々と共感を分かち合うという観る者の視点に立った芸術創造という「芸術の公共性の構造転換」につなげた意義は大きいものがある。

本論では、壁画が芸術の公共性に向かう上で、主題や造形、技法の三つの面からのパラダイムシフトが、ミロの壁画芸術を通じて、現代芸術の公共性を貫く思想と哲学、即ち「観る人の立場に立ち人々との共感の創出」の実現を述べたものである。

近現代の壁画による文化・芸術面からの「公共性の構造転換」は、ゲルニカを契機としながらもスペインのミロから始まったのである。(1,938文字)

*公共性の三つの概念：公的＝オフィシャル (Official)、共通＝コモン (Common)、誰にでも開かれた＝オープン (Open)